

★ 事業の概況 ★

●経営環境

デフレ・円高に伴う国内需要の低迷、欧州財政・金融危機を端緒とした世界経済の減速、対中関係の悪化や震災復旧・復興の遅れ等により、地域を基盤とする中小企業の経営環境は依然として厳しい状況にあります。昨年暮れからは金融緩和等政権への期待感から円安株高傾向が続いておりますが、地域経済においては景気回復を実感するには至っておりません。

当地域では、人口減少と少子高齢化の進行による購買力の低下、公共投資の縮減による基幹産業である建設業の低迷、異常気象による農業生産の不安定化など、明るい材料に乏しい状況となっております。

音威子府バイパス工事、下川町サンルダム工事等、大型の公共投資が今後見込まれますが、その波及効果は一部業種、一部地域など限定的なものと思込まれます。

●事業の展望と今後の課題

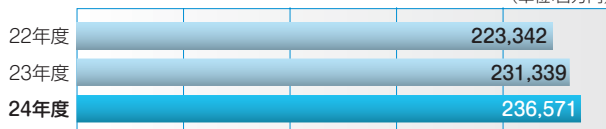
平成25年度は、新長期3か年経営計画「北星しんきん『つなぐ力』発揮2012」の2年目にあたります。新長期3か年経営計画では、地域やお取引先のみならずと真に向かい合って、抱えられている様々な課題の解決に取り組む「課題解決型金融」を強化していくことを目指しております。

「三方よし プラスワン（お客様、地域、信用金庫+職員）」をスローガンとし、お客様満足度の高い金融サービスの提供を通じ、地域社会の持続的な発展に貢献してまいります。

◎預金

預金期末残高は2,365億円となりました。各種キャンペーンの実施に加え、札幌支店の移転による相乗効果もあり個人預金を中心に順調に増加いたしました。

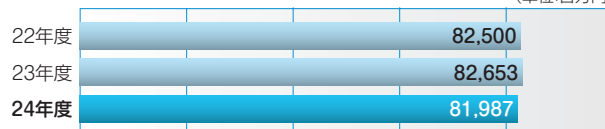
(単位:百万円)



◎貸出金

貸出金期末残高は819億円となりました。賃貸用住宅資金や地方公共団体向け貸出などは増加しましたものの、法人の運転資金需要低迷などもあり前年実績を下回る結果となりました。

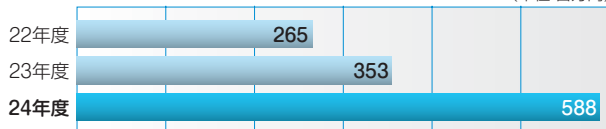
(単位:百万円)



◎当期純利益

残高の減少や金利低下により貸出金利息は落ち込みましたが、株高・円安などの効果により有価証券利息が増加し資金運用収益は前年度を上回りました。また、預金利息の減少や経費の抑制の効果もあり経常利益は940百万円、当期純利益では588百万円を確保することができました。

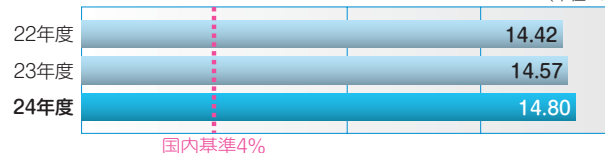
(単位:百万円)



◎自己資本比率

自己資本比率は14.80%と前期比0.23ポイント上昇しました。金融機関の安全性を判断する指標である国内基準の4%を十分上回っております。今後も安定した収益を確保し、自己資本の充実に努めてまいります。

(単位:%)



最近5年間の主要な経営指標の推移

(単位:百万円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
経常収益	4,520	4,527	4,573	4,116	4,168
経常利益	281	787	304	650	940
当期純利益	208	502	265	353	588
出資総額	745	747	748	748	750
出資総口数(千口)	14,915	14,953	14,974	14,974	15,004
会員数	20,236人	20,095人	19,936人	19,758人	19,571
純資産額	11,240	13,137	13,199	14,079	16,248
総資産額	225,402	233,213	238,234	247,187	254,874
預金積金残高	212,148	218,022	223,342	231,339	236,571
貸出金残高	82,685	83,897	82,500	82,653	81,987
有価証券残高	89,389	104,137	107,071	114,714	120,268
単体自己資本比率	13.75%	13.44%	14.42%	14.57%	14.80%
出資に対する配当金 (出資1口当たり)	2.0円	2.0円	2.0円	2.0円	2.0円
役員数	16人	15人	15人	14人	15人
うち常勤役員数	8人	7人	7人	7人	6人
職員数	201人	196人	194人	193人	189人

(注) 1. 単体自己資本比率は、信用金庫法第89条において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき算出しております。